

Present for You — 2016 年度 新収蔵作品展

わたしからあなたへ／みんなから未来へ

2017 年 1 月 5 日(木)～2 月 19 日(日)

1987 年 4 月の開館以来、当館は版画を中心とするユニークな美術館として、国内外のすぐれた版画作品と資料を収集・保存し、版画をテーマとする展覧会を開催してまいりました。収蔵品は現在 29,000 点を超え、「版画」という明確なテーマに基づいたコレクションは、他に類を見ない独自で貴重なものとなっていると自負しております。

近年はその活動実績を評価していただき、寄贈作品の数も増加しています。今後も古今東西の版画の歴史が多面的・総合的に理解できる質の高いコレクションの形成を目指して、継続して収集活動につとめていきたいと考えております。

本展では 2015 年度後半から本年度前半にかけてあらたに収蔵した 1,451 点の作品のなかから、主な作品約 90 点をご紹介します。本展を通じて、当館収蔵資料の充実にご寄与された方々を顕彰するとともに、当館の活動がさまざまな人々によって支えられ、市民ひとりひとりも美術館のサポーターであるということをご理解いただければ幸いです。

最後になりましたが、貴重な作品や資料をご寄贈くださいました皆様、収集活動にご協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。

2017 年 1 月 町田市立国際版画美術館

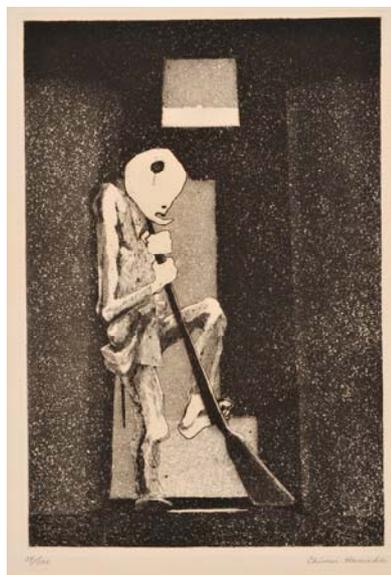
◇凡例

作家・作品データは展示順に掲載しています。

各データは次の順に記載しています。

作者名、生没年、解説、題名、制作年、技法、寸法(mm)

作家名(ローマ字)については、姓を大文字で表記しています



浜田知明

《初年兵哀歌(歩哨)》

1954 年

せんじゅかんのんざういんぶつ

千手観音坐像印仏

とうしょうだいじ もくしんかんしつぞう

唐招提寺金堂の木心乾漆造千手観音立像(奈良時代)に納入されていたと伝わる印仏です。鎌倉時代におこなわれた同寺の造営事業の一環として追納されたものと考えられています。千手観音坐像の印仏自体が珍しいことに加え、緻密な刻線や印仏としては大きく表された^{たいく}体軀が見どころです。

千手観音坐像印仏 (伝)唐招提寺伝来

鎌倉時代(13世紀) 木版(紙本墨印)

約 180mm(像高)

2015 年度購入

司馬江漢(1747～1818) SHIBA Kokan

浮世絵師、洋風画家として活躍し、天明 3 年(1783)

にエッチングによる風景画「^{みめぐりのけい}三 囲 景」を初めて制作したことで知られています。本作品は、上野の^{しのばずの}不忍池を、透視図法を用いて捉えたエッチングです。本来は反射式眼鏡絵として制作されたため、左右反転して描かれています。

しのばずのいけ
不忍之池

天明4年(1784) 銅版(エッチング)、手彩色
250×363mm
森登氏より寄贈

幕末・明治の浮世絵

『役者絵画帖』は、三枚続きを中心に役者絵 88 点が収められた画帖で、折本状の裏表に浮世絵が貼り込まれています。収録される作品全てが安政 6 年～文久 3 年(1859～63)の 4 年間に発行されたもので、三代歌川豊国の作品が大半を占めるほか、二代歌川国貞、落合芳幾、豊原国周の作品が多く含まれています。

「五節句の内 三節の見立 新材木町 新乗物町」は、歌川国芳の次女、歌川芳女の作品として唯一知られる三枚続きです。明治に活躍した楊洲周延による作品は、『仮名手本忠臣蔵』に取材した三枚続きの役者絵で、明治浮世絵を象徴する赤いアニリン染料による背景が印象的です。

役者絵画帖

安政 6 年～文久 3 年(1859～63)
木版(大判錦絵 折本)
※大判錦絵は約 390×260mm
早田日出一氏・敦子氏より寄贈

歌川芳女(1842～没年不詳) UTAGAWA Yoshijyo

五節句の内 三節の見立 新材木町 新乗物町
文久 2 年(1862) 木版(大判錦絵三枚続き)
早田日出一氏・敦子氏より寄贈

楊洲周延(1838～1912) YOSHU Chikanobu

四代目中村芝翫の高野師直、九代目市川団十郎の大星由良之介、三代目片岡我当の大星力弥、四代目嵐璃寛の寺岡平右衛門
明治 15 年(1882) 木版(大判錦絵三枚続き)
早田日出一氏・敦子氏より寄贈

月岡芳年(1839～92) TSUKIOKA Yoshitoshi

月岡芳年は明治を代表する浮世絵師です。本図は、物覚えが悪く経典を記憶できなかった祐天が、成田

山新勝寺で修行中、不動明王に長剣を呑まされる夢を見て、智慧を授かったという場面に取材しています。三枚続きの中央に不動明王と祐天が、左右には制多迦童子と矜羯羅童子が描かれています。

祐天不動の長剣を呑む図

明治 18 年(1885) 木版(大判錦絵三枚続き)
前田紀和氏より寄贈

『都の花』

『都の花』は、明治 21 年(1888)10 月から 26 年(1893)6 月にかけて刊行された、日本初の商業文芸雑誌。第 9 号には、小林清親(1847～1915)による挿絵「憲法組立の図」が掲載されています。これは明治 22 年(1889)の大日本帝国憲法発布を記念して描かれた図で、清親らしい賑やかな画面構成が見どころです。清親は、第 1 号に編集主幹・山田美妙の小説挿絵を描いて以来、同誌の挿絵を担当していました。

『都の花』第 9 号

明治 22 年(1889)刊 木版 215×148mm
岩田行雄氏より寄贈

木村希八コレクション

版画の刷師を本業としつつ作家としても活動し、さらに現代美術のコレクターでもあった木村希八(1934～2014)旧蔵の版画全 190 点が、ご遺族の木村太陽氏から寄贈されました。2015 年前半期につづいて 2 回目の受入れになります。その内容は第二次世界大戦後の日本の現代作家の版画です。本展でその一部をご紹介します。

福沢一郎(1898～1992) FUKUZAWA Ichiro

群馬県、現富岡市生まれ。東京帝国大学在学中に彫刻制作を開始、その後フランス滞在時に油彩画の制作へと転じた洋画家です。日本へシュルレアリスムを紹介した前衛絵画の主導者として知られています。鋭い批評精神と主題の十分な調査研究にもとづく制作をおこない、人間・社会・美術に対する批評を

具現化した骨太な絵画を描きました。1955 年より版画制作を開始し、生涯に 140 点を超える版画(リトグラフ、銅版画)を制作しています。出品作品の 2 点は日本美術家連盟から出版されていますが、作品の旧蔵者の木村希八は連盟が経営していた版画工房の刷り師だったことがあり、木村との縁がある版画といえます。

魚とネオン 1959 年 リトグラフ 365×505 mm
地獄のアルバム 1976 年頃
 銅版(エッチング、アクアチント、ドライポイント)
 366×402 mm

益田義信(1905～1990) MASUDA Yoshinobu

東京生まれ。美術の国際交流に功績を残した洋画家。祖父は三井物産創業者の益田孝、父は実業家・劇作家・音楽家の益田太郎冠者。梅原龍三郎に師事する一方で 1928 年に渡仏して絵を学びました。帰国後は国画会に所属して制作・発表しています。戦後はリトグラフも制作し、1955 年には国画会版画部の会員ともなっています。出品作品の刷りは、戦後日本のリトグラフの刷り師のさきがけであった女屋勤左衛門によるもので、画面下に à “monsieur Onaya avec remerciements”(女屋氏に感謝します)などと献辞が記載されています。

神鹿 1959 年 リトグラフ 385×567 mm
題名不詳 1959 年 リトグラフ 380×558 mm
魚と貝 1959 年 リトグラフ 342×423 mm
うずら 1959 年 リトグラフ 540×418 mm

島州一(1935 年生まれ) SHIMA Kuni-ichi

東京生まれ。多摩美術大学卒業。1970 年代に身の回りにあるカーテンやふとん、シーツ、窓などを写真におさめ、ほぼ等寸大の布にプリントしてインスタレーション(空間に設置)するという作品を制作しました。それらは視覚や触覚、嗅覚などから得られる認識や感覚の一致とズレなどを再確認する作業でした。寄贈作品は、それ以前に制作された題名不詳の最初期のリトグラフです。鮮やかな色彩と自由な描写が見られる抽象画です。

題名不詳 1960 年 リトグラフ 415×565 mm
題名不詳 1964 年 リトグラフ 445×572 mm
題名不詳 1965 年 リトグラフ 422×585 mm
題名不詳 制作年不詳 リトグラフ 400×555 mm
 木村太陽氏より寄贈

河野通勢(1895～1950) KONO Michisei

大正期の画家グループである草土社そうどしゃに所属した後春陽会で活動、まもなく岸田劉生きしだりゅうせいらの大調和美術展の創立に参加した近代日本の洋画家です。大衆小説の挿絵も多く制作しています。日本で最初に本格的に銅版画制作に取り組んだ画家でもあり、断続的ですが、1910 年代前半から 1930 年代中頃にかけてエッチングを多数制作しています。住んでいた長野の風景や聖書、関東大震災に取材した銅版画が残されています。出品作品は、2000 年に見つかった銅版画原稿を銅版画家の若月公平わかつきこうへいが 2001 年に後刷りしたものです。

聖なる墓

1918 年(2001 年の刷り)

銅版(エッチング ※亜鉛版使用) 208×363 mm
 キリストたつけい
基督磔刑図

1923 年(2001 年の刷り) 銅版(エッチング)
 115×242 mm

ひふくしよ
被服廠

1923 年(2001 年の刷り) 銅版(エッチング)
 91×121 mm

マアママ待った待った

1923 年(2001 年の刷り) 銅版(エッチング)
 123×92 mm

◇資料(原版)

聖なる墓(亜鉛)
 キリストたつけい
 基督磔刑図(銅)
 ひふくしよ
 被服廠(銅)

マアママ待った待った(銅)

瀬尾典昭氏より寄贈

浜田知明(1917年生まれ) HAMADA Chimei

熊本県出身。東京美術学校卒業後、通算 5 年に及ぶ兵役を経験。1950 年から駒井哲郎や関野準一郎らと交流しながら本格的に銅版画制作をはじめました。まもなく戦争や軍隊での体験をもとにした『初年兵哀歌』の連作を発表、ルガノ国際版画展次賞を受賞し高い評価を得ます。1950 年代後半から故郷の熊本を活動拠点とし、人間や社会、政治などの諷刺にもテーマを広げ、1980 年代前半からは彫刻作品も手がけています。100 歳近い現在も人間の弱さや愚かさをユーモアをまじえた深いまなざしで表現し続ける、戦後日本を代表とする銅版画家です。

初年兵哀歌(歩哨)

1954 年 銅版(エッチング、アクアチント)

238 × 162mm ※第 4 回ルガノ国際版画展(次賞)

副校長 D 氏像

1956 年 銅版(エッチング、アクアチント)

216 × 146 mm ※第 2 回現代日本美術展(佳作賞)

飛翔(赤)

1958 年 銅版(エッチング、アクアチント)

365 × 451mm

狂った男

1962 年 銅版(エッチング、アクアチント)

361 × 292mm

※第 5 回現代日本美術展(第 2 回福島賞)

月夜 1977 年 銅版(エッチング、アクアチント)

256 × 270mm

見られている…。

1982 年 銅版(エッチング、アクアチント)

200 × 230mm

今井泉氏より寄贈

土屋正男(1913~2008) TSUCHIYA Masao

小学校卒業後、徒弟として型友禪の技法を学び、戦後はデパート勤務の傍ら、防染糊を使う型付染色の工法を応用した合羽版の技法で制作を続けました。1957 年、30 歳で第 9 回日本版画院に初出品、以降、木版や合羽版による作品を出品。1968 年、日本美術家連盟会員となり、同年に退職してからは制作に専念しました。

地獄変

1978 年 合羽版 各 165 × 80cm

菊地真紀氏より寄贈

木村利三郎(1924~2014) KIMURA Risaburo

神奈川県横須賀市出身の美術家。1947 年に神奈川県師範学校(現在の横浜国立大学)を、1954 年に法政大学哲学科を卒業。同学では美術評論家を志し、美学を学びました。卒業後に逗子にアトリエを構えて本格的な制作活動にはいります。1964 年に渡米し、死去する 2014 年までニューヨークを拠点に制作活動を続けました。「都市の構造と崩壊」をテーマにした抽象的なスクリーンプリントが特徴です。

City 460 1988 年 スクリーンプリント 505 × 505 mm

City 462

制作年不詳 スクリーンプリント 510 × 505 mm

City 521 Central Park New York

2000 年 スクリーンプリント 556 × 405 mm

木村秀夫氏より寄贈

松坂芳助(1939年生まれ) FUNASAKA Yoshisuke

岐阜県出身の版画家。1962 年、多摩美術大学卒業。東京国際版画ビエンナーレ展、国際青年美術家賞などで受賞。日本の伝統的な木版画の技法と、現代的なスクリーンプリントを組み合わせた作品で知られる版画家で、近年はドローイングやコラージュ作品も制作しています。出品作は 1960 年代より一貫して制作され続けているシリーズです。

My Space and My Dimension MM 51

2014 年 木版、スクリーンプリント 444 × 298 mm

My Space and My Dimension MM 67

2014 年 木版、スクリーンプリント 444 × 298 mm

My Space and My Dimension MM 82

2014 年 木版、スクリーンプリント 444 × 297 mm

My Space and My Dimension MM 93

2014 年 木版、スクリーンプリント 444 × 298 mm

My Space and My Dimension MM 96

2014 年 木版、スクリーンプリント 444 × 298 mm

My Space and My Dimension MM 97

2014 年 木版、スクリーンプリント 444 × 298 mm

須藤一郎氏より寄贈

浜田 浄 (1937 年 生まれ) HAMADA Kiyoshi

高知県出身の美術家。1961 年に多摩美術大学油料を卒業。1977 年より版画を制作し、クラコフ美術館賞やブリヂストン美術館賞等を受賞。版画のほかにも鉛筆や油彩等によって独特の奥行をもつ作品をはじめ、材質や筆致などの痕跡を強く感じさせる作品を制作しています。出品作では、インクのマチエールと規則的に配された切れ目のように見える肥瘦線が、画中に独特の奥行とリズムを生みだしています。

Work 79-8-2

1979 年 スクリーンプリント 430×590 mm

Work 80-2-19

1980 年 スクリーンプリント 500×500 mm

Work 82-2-17

1982 年 スクリーンプリント 500×500 mm
作家より寄贈

小川 一衛 (1936~2010) OGAWA Kazuei

群馬県桐生市出身。東京藝術大学工芸科图案計画専攻を卒業、広告やデザインの分野で活躍、1968 年からは女子美術大学でデザインを教えました。1976 年頃から、美しい色彩の多色刷りリトグラフを中心に版画制作に取り組みました。町田市に暮らしたゆかりの作家です。

もうドリームランドにはいかない

1994 年 リトグラフ 690×1160 mm
小川 弘子・晋氏より寄贈

蓮尾 力 (1943 年 生まれ) HASUO Tsutomu

静岡県清水市出身。東京学芸大学大学院修了後、小学校図工科教員を経て、1988 年より東京学芸大学美術教育助教授、1997-2004 年教授。2004 年より宮崎県串間市に移住、蓮尾工房を設立。日本版画協会展会員で、1985 年には星 襄 一賞を受賞、「記号の遺跡」はその時の出品作品です。生命の循環、その不思議とはかなさをテーマに制作を行なっています。

記号の遺跡 1985 年 木版 710×860 mm
武藤正実氏より寄贈

渡辺 豊重 (1931 年 生まれ) WATANABE Toyoshige

東京出身。社会人になってから難波田龍起や中谷 泰らに絵画を学び、1970 年頃より「かたち」と題するスクリーンプリントの制作を開始します。現在に至るまで、油彩画や立体と並んでスクリーンプリントやリトグラフの制作を続けてきました。その画風は、スペイン旅行や自然あふれる栃木・那珂川町への拠点の移動、東日本大震災などを経て変遷していきませんが、一貫して鮮やかな色彩、自由自在に変化する形で構成され、生命力にあふれています。

かたち No. 705

1970 年 スクリーンプリント 630×501mm

みどりの中の一つの白 (ピクニック)

1978 年 スクリーンプリント 502×705mm

ピンピンそして角のとれた四角とお友達

1984 年 スクリーンプリント 503×700mm

サンシャワー

1999 年 リトグラフ 570×381mm
作家より寄贈

西村 宣造 (1943~2012) NISHIMURA Senzo

大阪市出身の美術家。デザイン業界などを経て、1974 年に渡仏し、本格的な制作活動に入りました。同地ではサロン・ドートンヌやル・サロンに油絵を出品しています。1978 年に帰国、1979 年より東京の新日本造形版画工房でエッチングとリトグラフによる「アルルカン」シリーズを制作し始めました。自由闊達な線と大胆な彩色によって、画中に軽やかさと洒脱さが満ちています。

Arlequin 4-15

1979 年 銅版(エッチング) 200×137 mm

Flying-Blue-1

1982 年 銅版(エッチング) 392×290 mm

Quatre ARLEQUINS

1989 年 銅版エッチング 385×288 mm

in the dream (GUM)

1990 年 銅版(エッチング) 380×280 mm

手 No.7 祈り

2007 年 銅版(エッチング) 198×147 mm
遺族より寄贈

丸山浩司(1953年生まれ) MARUYAMA Hiroshi

栃木県足利市出身。多摩美術大学在学中に吹田文明に師事して木版画を始め、その後東京藝術大学大学院で野田哲也、中林忠良に師事して版画制作についての研究を深めます。さらに福島大学で教員養成のための仕事に従事し、美術教育を研究しました。愛知県立芸術大学助教授を経て現在は多摩美術大学美術学部教授。1970～80年代には故郷の足利で見た渡良瀬川の友禅流しから着想を得た色彩を表現していたが、近年はモノクロームの作品へと移行しています。繊細で静謐な心的世界を一貫して木版により表現し続けています。

Splashed Pattern <1>

1979年 木版 370×503mm

Round about midnight no.6

1979年 木版 408×628mm

Wave 80-B

1980年 木版 545×785mm

富田啓子氏・淵脇志摩子氏・竹内康博氏より寄贈

若林元司(1964～2014) WAKABAYASHI Motoshi

神奈川県座間市出身。東海大学海洋学部卒業。大学卒業後に師事した美術評論家の久保貞次郎の勧めで版画制作を始め、竹田鎮三郎と木村利三郎に師事。1993年には当館市民展示室で個展を開催しました。1996年、ニューヨークのアート・ステューデンツ・リーグに入学、同校コンテスト版画部門1等賞、ハワイ・ヒロ国際版画ビエンナーレ買上賞受賞。2003年帰国後は座間アーティストファイルに参加するなど地元で制作活動を続けていました。海や音楽、街を主題とした作品には躍動感があふれ、志なかばでの急逝が惜しまれます。

ニューヨーク・シティ・サブウェイ New York City

Subway 1998年銅版(エッチング、アクアチント)
450×605mm

からまった都市 Tangled City

2002年 銅版(エッチング、アクアチント)
605×900mm

森と都市

2009年 木版 410×625mm
若林陽介氏より寄贈

インクナブラ 零葉

「インクナブラ」と呼ばれる西洋初期印刷本の一頁(零葉)です。『道德寓話の対話』の挿絵はカエルとザリガニでしょうか。細く滑らかな線による簡潔な表現が目をはきます。『二十四長老あるいは黄金の玉座』は当時の木版画の特徴をよくあらわした作例。力強い輪郭線と簡素なハッチングに色彩が施されることで、味わい深いものとなっています。『黄金伝説』には衣文に彫られた細かく規則的な平行線による量感表現や、槍先や本の表紙の質感表現などの緻密な表現が認められます。

『道德寓話の対話』零葉

版元:ハウダ、ヘラルト・レーウ Gerard LEEU; Gauda
1480年6月3日刊 ラテン語 木版
48×110mm(イメージ)、274×187mm(紙)

イソップ『寓話集』やヨハネス・デ・カプア『人間生活の手引き』と並び評される、初期の木版挿絵付寓話集。著者の詳細は不明。ヘラルト・レーウはオランダのインクナブラ期を代表する版元で、1477年頃よりハウダで活動。その後アントウェルペンに拠点を移し、同地で没するまで数多くの書籍を刊行しました。

『二十四長老あるいは黄金の玉座』零葉

オットー・フォン・パッサウ(著)
版元:アウクスブルク、アントン・ゾルク
Anton SORG; Augsburg
1480年3月10日刊 ドイツ語 木版・手彩色
124×90mm(イメージ)、287×193mm(紙)

著者は14世紀バーゼルのフランチェスコ会士。本書は『ヨハネの黙示録』に記述のある24人の長老がそれぞれ教訓説話を語る内容となっています。版元のアントン・ゾルクは1475～1493年の間に100をこえる挿絵本を刊行。ただしアウクスブルクの先達であるギンター・ツァイナーらの書籍を模刻・再版したのも多いようです。

『黄金伝説』零葉

ヤコブス・デ・ウォラギネ(著)
版元:ウエストミンスター、ウィンキン・ド・ウォード

Wynkyn de WORDE, Westminster

1498年1月8日刊 英語 木版
100×70mm(イメージ)、280×193mm(紙)

西洋中世のベストセラー『黄金伝説』の英語版。著者は13世紀イタリアの聖職者で1267年頃に原本は完成したとされます。版元のウインキン・ド・ウォードは、イングランドに印刷機をもたらしたウィリアム・キヤクストンから印刷所を引き継いだ人物。なお本書の英訳もキヤクストンによるものです。

2015年度購入

ウィリアム・ホガース(1697~1764)

William HOGARTH

18世紀イギリスを代表する画家。ロンドンの貧しい教師の子に生まれ、金属細工師の徒弟見習いのち1710年頃より版画を制作、その後、油彩を描き始めました。当時の社会を諷刺し、教訓的な内容を数枚の場面によって構成した、「描かれた道徳」と呼ばれる油彩シリーズで知られます。これらの作品はホガース自身によって版画化され、海賊版が多数出回るほどの人気を集めました。

『時』

1762年 銅版(エッチング、エンブレイヴィング)
250×305mm
梶原洋一氏より寄贈

オノレ・ドーミエ(1808~1879) Honoré DAUMIER

19世紀フランスを代表する諷刺画家。本作品は『シャリヴァリ』紙に1848年から翌年にかけて連載された、当時の代議士90名を描いたシリーズ中の1枚。ドーミエが生きた19世紀のフランスは、目まぐるしく政体が変わる激動の時代でした。政治諷刺画は権力者により弾圧され続け、ドーミエも風俗諷刺画を描く時期が長く続きました。この作品は、1848年の2月革命直後に出版の自由が認められたごく短い期間に描かれた政治諷刺画です。

『当世代議士鑑 立法議会』より パリュール

1850年 リトグラフ 255×218mm
今野佳代子氏より寄贈

門坂流(1948~2014) KADOSAKA Ryu

京都出身のイラストレーター、銅版画家。1968年に東京藝術大学油絵科に入学し、1973年から鉛筆・ペン画による本の装画や雑誌の挿絵を手がけ始めます。1985年頃よりエンブレイヴィングの技法を独学しました。彼の作品の特徴は交わらない流麗な線によって人物や静物、風景などの姿を描き出す点にあります。その線は大気や水の動きを強く感じさせ、自然が宿す生命力を幻出させたかのようなようです。

樹下

1986年 銅版(エンブレイヴィング) 235×357mm

早瀬(色刷)

1989年 銅版(エンブレイヴィング) 235×182mm

早瀬

1989年 銅版(エンブレイヴィング) 235×182mm

巻貝

2005年 銅版(ドライポイント) 118×88mm

浜辺の貝殻

2003年 銅版(エンブレイヴィング) 116×155mm

オークの巨木

2008年 銅版(エンブレイヴィング) 250×190mm

縄文杉(雁皮刷)

2009年 銅版(エンブレイヴィング) 320×240mm

題名不詳

制作年不詳 木口木版 直径120mm
門坂極子氏より寄贈

尾崎ユタカ(1956年生まれ) OZAKI Yutaka

山梨県出身の銅版画家。1980年に東京藝術大学美術学部絵画科油画(銅版画研究室)を卒業。現在に至るまで数多くの個展・グループ展に出品し、2002年には第2回モントリオール国際ミニアチュール版画ビエンナーレで最高賞を受賞しています。彼は習得が難しいエンブレイヴィングの線刻技術を身につけた版画家のひとりです。手のひらほどの画面の中に、緻密な刻線による小さな宇宙が広がっています。

版画集『On the Earth』

1995年銅版(エンブレイヴィング、メゾチント)／銅版(エンブレイヴィング、ドライポイント) 各30×60mm

Fly Fishing

2005年 銅版(エンブレイヴィング、エッチング、メゾチント) 60×120 mm

ラブドールの休日

2001年 銅版(エンブレイヴィング、エッチング、メゾチント) 70×135 mm

DRAWING

2001年 銅版(エンブレイヴィング、エッチング、メゾチント) 65×125 mm

高校生剣士に捧ぐ

2004年 銅版(エンブレイヴィング、エッチング、メゾチント) 125×145 mm

えいやー！！

2001年 銅版(エンブレイヴィング、エッチング、メゾチント) 30×55 mm

月富士

2010年 銅版(エンブレイヴィング、エッチング、メゾチント) 100×190 mm

羽衣

2011年 銅版(エンブレイヴィング、エッチング、メゾチント) 80×160 mm

作家より寄贈

山本進(1951～2016) YAMAMOTO Susumu

からさわひとし
愛媛県出身。上京後、創形美術学校で柄澤 齊ひわさきたかおに木口木版制作を学びます。1977年に日和崎尊夫のみを中心に木口木版作家で結成した「鑿の会」の創立メンバーとなり、日和崎・柄澤の作風に連なる幻想的な作品を発表しました。1980年代前半は上田秋成の『雨月物語』に取材し、古典世界に独自の探求と解釈を加えた作品を残しています。美学校などで講師を務め、技法の普及にも貢献しました。出品作は木口木版ならではの濃密な画面で、怪奇적でありながら静謐な世界を表現しています。

『雨月物語』天の涙(銀)

1986年 木口木版 160×125mm

『雨月物語』浅茅が宿より宮木

1986年 木口木版 160×125mm

『雨月物語』吉備津の釜より磯良

1986年 木口木版 220×220mm

『雨月物語』崇徳 No.1

1986年 木口木版 165×225mm

夜の夢想 — night dream

1980-1982年 木口木版 150×84mm

(『鑿Ⅱ』掲載《夜の夢想Ⅱ》の改版)

坂下台巖子氏より寄贈

日本の木口木版画に関する資料

しばつじ
No.1は、東京出身の木口木版の彫師だった芝築地三郎(1902～2001)の直筆原稿と版木です。原稿には彼の半生とともに写真資料や実際の刷り見本によって道具の使い方や版刻料金などが記されています。
はる
No.2は、東京出身の木口木版の彫師である吉田恵雄(1933年生まれ)が手がけた木口木版画をまとめた作品集や、木口木版が使用された新聞や雑誌の切り抜きをまとめたスクラップブックです。彼は父親から木口木版の技法を学び、商業美術の分野で活動しました。

芝築地三郎(1902～2001) SHIBATSUJI Saburo

『私が知っているかぎりの日本の西洋木版の歴史』直筆原稿ほか

芝築地望氏より寄贈

吉田恵雄(1933年生まれ) YOSHIDA Haruo

『西洋木版による吉田恵雄作品集』ほか

作家より寄贈

町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1

<http://hanga-museum.jp/>

2017年1月5日発行

この冊子は3000部作成し、1部あたりの単価は40円です。

(職員人件費を含みます。)